ぎょうだ

歴史系譜 210

行田の歴史再発見 13

城下町行田の発展

行田町は忍城の城下町として発展してきました。天文13年（1544）には市が開かれていたという記録が残っていますから、戦国時代の後半には周辺の農村から物資が集まり、商業活動が行われていた地域経済の中心地であったことがうかがえます。

江戸時代になり、阿部家が藩主になると本格的な整備が進められました。町人が住む場所は、それまであった本町、下町、新町に加えて、明暦元年（1655）に新たに八幡町が開かれました。享保6年（1721）の記録では、自分の家を所有している家持が275戸、借家である店借が456戸、人口は3049人（男性1660人・女性1389人）となっています。

行田町の町政は藩の町奉行の指示のもと、梅沢家、吉羽家、樋口家、古橋家の町年寄が月番で担当していました。町年寄は世襲制で名字帯刀を許されていました。その下には各町ごとに表立と呼ばれる補佐役が置かれていました。表立は町内の世話から治安・ばくちの取り締まり、消防、町内の諸約の割り当てまで町政全般にわたり、町年寄と一般の町民を結びつける役割を果たしていました。

享保年間行田町絵図

行田町は町の中心を日光館林道が通る宿場町でもあります。本町には幕府の役人など公用で宿場を訪れる者の宿泊所となる本陣や、荷物の中継基地である問屋場が置かれていました。荷物を運ぶための人夫や馬が常備されましたが、それにかかる費用は町民が分担していました。当初は常時107人83頭を置くように決められていましたが、町民たちによる軽減願いの結果、寛保2年（1742）には50人50頭まで引き下げられました。

町の西側には忍城を取り巻くように武家屋敷が広がっていました。享保年間の様子を描いた町絵図には呉服商や造り酒屋、八百屋、魚屋、米屋から大工、医師まで59業種が記載されています。ここに集められて売買された多くの物資が、藩士や町人たちの生活を支えていたのです。

（郷土博物館　鈴木紀三雄）

こぜにちゃんが行く！ with フラべぇ

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。

ホテイアオイ

水城公園の「あおいの池」でじゅうたんのように薄紫色の花を咲かせているホテイアオイ。葉っぱと茎をつないでいる部分が丸く膨れているところが、七福神の布袋様のおなかに似ていることから、この名前が付いたんだって。おもしろいね。

毎年、6月ごろになると南小学校と長野中学校のお友達がホテイアオイの苗の投げ込みを行っているよ。その数なんと10,000株！ビックリだね。ホテイアオイは10月まで楽しめます。でも、不定期に満開になるから、公園を訪れたときは必ずチェックしてみてね。池一面に満開に咲いているホテイアオイに出会えたらハッピーな気分になるかも。

※写真は昨年のホテイアオイの様子です

今月の表紙

6月12日に行われた田んぼアート米づくり体験推進事業で植えられた稲が成長し、田んぼアートが見ごろを迎えています。

2.8ヘクタールの田んぼには、歴史小説「のぼうの城」のカバーイラストを題材に主人公「のぼう様」こと成田長親と忍城水攻めを行った石田三成、さらには東日本大震災復興への市長直筆のメッセージが描かれています。現在、この田んぼアートの面積をギネス記録に載せようと挑戦中。世界一の田んぼアートが誕生するか、今から楽しみです。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

PRINTED WITH SOY INK 環境にやさしい大豆油インキ

市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361-8601行田市本丸2番5号　TEL 556-1111　FAX 550-2116
ホームページ http://www.city.gyoda.lg.jp　携帯サイト http://www.city.gyoda.lg.jp/mobile/index.html